

令和4年度 第1回福井県嶺北地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時：令和4年6月6日（月）13：30～16：00

場 所：フェニックスプラザ 地下大会議室

1 開会

2 あいさつ

福井県 藤丸新幹線・まちづくり対策監

3 基調講演

テーマ：「地域の移動手段として持続可能な交通ネットワークの構築」

福井大学大学院 教授 川本義海氏（福井県嶺北地域公共交通活性化協議会会長）

4 議事

（1）地域交通の確保に向けた取組事例について

- ①永平寺町近所タクシーの取組について
- ②坂井市公共交通サービス・リニューアルについて

福井市

- ・福井市は令和3年3月に第2次都市交通戦略を定め、これに基づき交通づくりを進めている。まちづくりをしながら交通をつなげ、いかに拠点形成を進めるかが課題である。山間部の美山や海岸部の越廼の拠点機能が不足してきており、郊外の拠点のあり方について、イベントなどを開催しながらどういった拠点づくりができるか模索している。
- ・交通については幹線となる鉄道・バス、地域コミュニティバス、地域バスを運行しているほか、高須地区では車を貸出して自治会主体の運行や、今年の春から福祉車両を活用しながら、地域の力を借りて運転手不足やきめ細やかな運行対策を行っている。
- ・拠点間をネットワークで繋げていきたいと考えているが、拠点づくりに苦慮している。また、その際の乗継に対するシームレス化が課題であり、MaaSやキャッシュレス等を活用し、乗継のシームレス化を図ってきたいと考えている。

大野市

- ・ある郊外の地区では高齢化が進み、その地区の課題として自動車を運転できない方が増えていくため、公共交通に不安を感じている。その地区に入っていく、永平寺町の近助タクシーのような取組を含め、実証実験の実施も視野に入れている。これから住民との話し合いを進め、方向性を決めていく段階にあり、こういった機会で勉強していきたい。

勝山市

- ・人口減少や高齢化が非常に進んでおり、高齢者の地区内の地域交通の在り方を考えている。全体としては、市内のフルデマンドについて将来を見据え考えているが、11月頃から地元主体の自家用有償運送の実証実験を実施したいと考えている。
- ・その一方で、市全体でどのようにフルデマンドに取り組むのか、また、基幹ルートとの乗継の仕組みを検討し、勝山市全体で、高齢者、交通弱者、若者も車を使わなくても移動できる環境を総合的に考えていきたい。

鯖江市

- ・市内を運行するコミバスについてであるが、過去5年間では市内の周遊や公共施設へ高齢者を運ぶ、通勤通学にも配慮するといった、コミバスに挑戦してきたが、利用者が大きく減少したことから、今年4月から市民の日常生活に根ざしたシンプルでわかりやすい内容で運行を開始した。
- ・市内の河和田地区では令和2～4年度を実証期間として、自家用有償運送の実験を行っている。これはタクシー事業者主体で行っており、現在の会員は約50名、ドライバーが約10名となっている。令和3年5月から有料の実証運行として開始し、これまで240回の運行実績があるが、地区内の運行実績は100回程度で、あまり利用は増えていない。当初からつつじバスとの連携等を考えていたが、現実的には、つつじバスの期待が高い状況であり、令和5年度以降の取組の方向性をしっかり出していきたい。

あわら市

- ・市内ではデマンドタクシーを運行しており、市民からは、概ね好評を得ている。利用者からは、停留所の増設やドアツードアへの対応や市外への接続が求められている。ただ、デマンドタクシーのサービスをよくすることで既存の公共交通が影響を受けてはいけないと考えるので、両者のバランスを考えながら検討していきたい。

越前市

- ・2つ大きな課題があり、1点目は新幹線駅について、丹南地域の玄関口として市街地や観光拠点等への移動手段を確保する必要がある。今春に武生駅や鯖江駅、金沢駅で観光ニーズや利用ニーズについて、インタビュー調査をした。その結果を踏まえて二次交通について具体的に検討を進めていき、来年度の実証実験を考えていきたい。アンケート結果では、丹南地域の観光拠点のニーズは大差なく、均等であり、それら拠点をどのように結ぶか知恵が必要だと感じている。
- ・2点目は、地域限定の話だが、中山間の高齢化の進んだ地域で、買い物などの移動手段について、コミュニティバスを週何日か限定で運行しているがニーズを満たしていない。それをどう対応していくか検討する必要がある。

池田町

- ・町主体のバスが2種類あり、町内全域を走行するコミバスと福井市と池田町を結ぶ自家用有償旅客運送制度を利用しているマイバスがある。コミバスの利用減少が課題であり、令和4年6月に一部路線の変更を行い、スクールバスと兼用している便を見直した。これを機に時刻表をわかりやすく見直した。また、33集落専用の時刻表を作成しており、利用者の減少に歯止めをかけたいと考えている。

南越前町

- ・コミバスを運行しているが、利用者は伸び悩んでいる状況である。
- ・一方で高齢化が進んでおり、免許返納者も増えている中で、高齢者の移動手段を確保することが必要であり、今年度、AIシステムを活用したデマンド運行の実証実験を予定している。町内全域を対象に完全予約制でバスを運行させる。その結果を踏まえ、コミバスからデマンド運行への移行等について検討する予定である。

越前町

- ・約2年前に地域公共交通計画を策定し、昨年度、新しい公共交通の形を検討した。今年4月から、コミバス9路線のうち、5路線を廃止し、新しい形として、デマンドタクシー「チョイソコえちぜん」を導入した。廃止した5路線の区域にデマンドタクシー運行区域2区域を設定し、運行している。「チョイソコえちぜん」の特徴として、登録制で自宅から指定停留所約50か所を結び、運行している。当初の想定よりも利用が伸び悩んでおり、コロナ禍で周知する機会が少ない中ではあるが、周知徹底を図りたい。

京福バス

- ・バスの利用状況は、人口減少や少子化でコロナ前から減っている。コロナを受けて出控えにより、昨年はコロナ前と比べ、生活路線は2割減、連休明けは2.5割減となっている。まちなかの集客力の低下や集まる機会の減少もあるのだろうと感じている。これまでも利用実態にあわせて便数設定を行い、郊外の病院やショッピングセンターがあるため、乗継拠点を設け定着してきている。その先は小型タクシーに乗り換えていただく工夫も実施している。通院や買物には、地域の足として確保する使命があり、対応していきたい。
- ・観光については利用が少ないため、観光路線と生活路線が同じ区間を走る際には、それらを合わせて運行するようにしている。福井市のすまいるバスは、朝晩の運行時間を拡大した。スクールバスにおいては、個別契約もあるほか、郊外の学校の統廃合が進むと想定される。乗務員不足が深刻化する中、二次交通の対応を取り込んでいけるか心配であるが、バランスを見ながら対応していきたい。
- ・高齢者は通院を自粛するようになってきているが、元気に暮らしていただくためには、外出機会を増やす仕組みが必要と思う。目的をつくり、出かけていただく必要がある。大多数がバスを利用していない方と思うが、利用のストレス緩和は重要である。Ma a Sやキャッシュレス化のほか、バスの乗降方法を知っていただき、生活の一部に取り入れていただければ

るように交通事業者として努めていきたい。

タクシー協会

- ・タクシーにおいても、コロナによって3～4割減少しているが、タクシー業界が存続できるようにしていきたい。また、タクシーに近い自家用有償運送やデマンド交通については、導入に際して順番があると考えている。デマンド交通はバスとタクシーの間であり、停留所から停留所などの制約をつけて、タクシーと区別してもらいたい。ドアツードアとなると、タクシーの存在意味がなくなるため、しっかりと検討いただきたい。自家用有償運送については、タクシーの有無が検討の入口だと思う。公共交通空白地域であれば別だが、タクシーの営業所があれば、それを用いることが先だと考える。
- ・タクシー協会としても、自家用有償運送であっても、タクシーとの協力型の運行もあり、アルコール検知をタクシー事業者が実施するなど、協力しながらやっていくこともありえる。デマンド運行についても、タクシーとデマンド運行を一緒にやっていくことも可能である。あわら市で運行しているように、停留所から自宅まではメーターで運行するなど、役割分担をしながらやっていきたい。

(2) 嶺北地域公共交通計画策定にかかる委託業務について

越前市

- ・広域基幹バスとデマンド交通等の切り分けはどのように想定されているのか。

日本海コンサルタント

- ・地域間幹線系統については、調査を実施し、定量的に広域路線としての評価・見直しを行っていきたい。一方、デマンド交通やコミュニティバスは各市町の計画で位置づけられているため、それを基に類型化して整理するなど、広域と各市町で検討する内容を整理して対応していきたい。

越前市

- ・カルテの作成レベルはどういったものになるのか。

日本海コンサルタント

- ・広域の視点で作成する予定である。幹線系統のエリアごとにカルテを作成し、主に複数市町での連携方策の検討に活用していきたい。

中部運輸局

- ・利用者アンケートでパーソントリップ調査を実施するとのことであるが、1日の移動のみを聞くことを想定されているのか。それとも他の項目も把握するつもりなのか教えてほしい。

い。

日本海コンサルタント

- ・パーソントリップと住民の利用意向を把握することを考えている。

中部運輸局

- ・中部運輸局では昨年度、コロナによって住民の行動がどのように変化したか調査研究を行った。その中で、コロナ感染拡大に伴い移動手段を転換した例が多くあり、そういった方に公共交通を使っていたかどうか回答として拾えなかった。工夫しながらやってもらいたい。
- ・計画全体でいうと、県と市町のやるべきところを整理して、成果として有用なものにしてもらいたい。また、成果指標では、必須3指標となっているが、他の自治体においては、収支率の目標が達成できなかつたから廃止するというような使い方をされている例があるが、そのような指標ということで作成してもらいたいわけでは無いため、注意いただきたい。

川本会長

- ・地域内、市町内での交通への関心が高いことが分かった。共通項目として解決できることは今回の調査等で把握できると思う。また、広域として幹線交通を守り、強固なものにするのはこれからだと考えるが、そこが重要である。高校への通学可否、つまり進路選択に影響が生じると思う。
- ・利用者数は大きな指標であるが、本当に必要で困っている人が助かるかどうかという視点も重要である。一方で、プラス側になる指標も重要であり、前向きなところも組み込みながら、最低限守ったということでは夢がないため、メリハリのある計画として策定できればと思う。

えちぜん鉄道

- ・これまでの話を聞いて、感じたことであるが、まず、1点目は今後、車との共存をさらに考えることが必要である。車社会だけでは息詰まることもあるため、そこで公共交通機関の良さをアピールしたい。その一つがパーク&ライドであり、えちぜん鉄道では三国祭りや勝山の左義長等が成功事例と思うので、車社会の中で公共交通が伸ばせる余地があることを示したい。2点目は、交通弱者、学生・生徒や高齢者や障がい者のニーズにどう応えていくかということが課題であると考えている。そして、3点目は、北陸新幹線開業に伴う観光客対応が必要である。この3点を今回の計画においてしっかり捉えていただきたい。

川本会長

- ・これからは車と公共交通の良さを生かして持続可能な社会につながる。また、ライフステージに伴い交通の使い方が変わるので、そういった素地を担保することも重要である。公共交通だけで考えても難しく、車との関係性をどう作っていくか、アイデアを工夫し探っ

ていく、チャレンジしていくと地方らしい計画になっていくと考える。

- ・計画策定に向けて、関係各位にはデータ提供等のサポートも併せてお願いしたい。

5 閉会